

～生命尊重週間について（2/5～2/9）～（朝礼講話より）

1月30日火曜日に行われた、研究発表会では区内小中学校の先生方がたくさん参加されました。参加された多くの先生方から、みなさんの授業に対する取組の様子や挨拶の態度をととても褒めてもらえました。校長として、みなさんの日頃の様子を外部の人に認めてもらえること、褒めてもらえること、これほどうれしいことはありません。みなさんのことを誇らしく思います。

さて、今日はそんな誇らしい大切なみなさんに向けて話をします。

みなさんにとって今、学校で一番大切なものは何ですか。友達、授業、部活、給食……。考えてみるとたくさんありますね。では、先生たちが一番大事にしているものは何だと思いますか。それは、みなさん一人一人の命です。みなさん一人一人の心と体です。みなさんが生まれたとき、言葉は違っても必ず言われたことがあります。「生まれてきてくれてありがとう。世界中どこを探してもあなたの代わりはどこにもいない。世界に一人だけしかいないあなた。たった一つの命を大切にね。」とされているはずですよ。

今、世界の国々で争いがあります。心配なニュースも毎日のように耳にします。だからこそ、皆さんに伝えたいことがあります。みなさんの命は、家族にとって先生たちにとって、地域の人にとって一番大事。なにより自分にとって一番大事だということです。

では、自分の命を大切にするとはどうすることでしょうか。自分にできることを考えてみてください。友達と話し合ってみてください。健康や安全について、友達と仲良くすることについて、自分の良いところについて考えてみてください。

人によって得意なことがあれば苦手なこともあります。でも、そのままの皆さんが先生たちは大好きなのです。

これから大人になるまでにいろいろなことがあります。楽しいこともあれば、悩むこともあるでしょう。でも、いつもどんなときでも、あなたが大事な存在であることに変わりはありません。だから一番大事にしてください。自分の命を。

先生たちは、みなさんが安心して毎日を過ごせるように全力で努めます。みなさんのそばにいます。みなさんと話をします。そして一緒に考えます。

今週は、生命尊重週間です。一週間という時間の中で、いつもよりも意識して命の大切さについて考えてください。

* 1月19日(金)20日(土)の蓮中祭展示部門及び学校公開におきましては、多数の保護者の皆さまのご来校をいただき、誠にありがとうございました。全校生徒394人に対して、のべ241家庭のご参加をいただきました。事後アンケートも含めまして、ご家庭のご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



蓮中祭 展示部門



2月11日(日)に生徒会役員の皆さんが蒲田駅前で能登半島地震義援金募金活動を行いました。その活動が2月12日の、読売新聞、東京新聞に掲載されました。

2月12日版

←読売新聞

「能登に笑顔を」
中学生募金活動
大田
能登半島地震の被災者を支援しようと、大田区立蓮沼中学校の生徒たちが11日、JR蒲田駅前で募金活



動を行った。写真。生徒会の4人が駅前で、「被災者の方や能登半島と一緒に笑顔をお届けしましょう」などと声を張り上げ、寄付を呼びかけた。駅の利用者や通行人が足を止めて募金箱に寄付をすると、頭を下げ、感謝を伝えていた。

この活動で、約8万円の寄付金が集まった。1年の樋渡皇瑛さん(13)は「一家の補強や再建など、被災された方が早く元の生活に戻れるように役立ててほしい」と話した。1年の伊東愛美さん(13)は「被災された方を支えられないかと思っていた。今後もボランティア活動を続けていきたい」と話した。

東京新聞↓



募金を呼びかける蓮沼中学の生徒。大田区で

蓮沼中生が 蒲田で募金呼びかけ

能登半島地震の被災者に義援金を送ろうと、大田区の蓮沼中学の生徒が11日午前、JR蒲田駅西口で街頭募金を行った。

生徒会の1、2年生4人らが募金箱を持ち、「被災者の方に笑顔と一緒に届けましょ

う」と呼びかけると、小さな子ども連れや買い物中の人たちが足を止め、募金箱にお金を入れていた。

都薬物乱用防止大田地区協議会が協力。1時間で寄せられた約8万円は、東京新聞社会事業団に寄託する。